

平成17年基準 **消費者物価指数（大津市）**  
**平成20年（2008年）3月分**

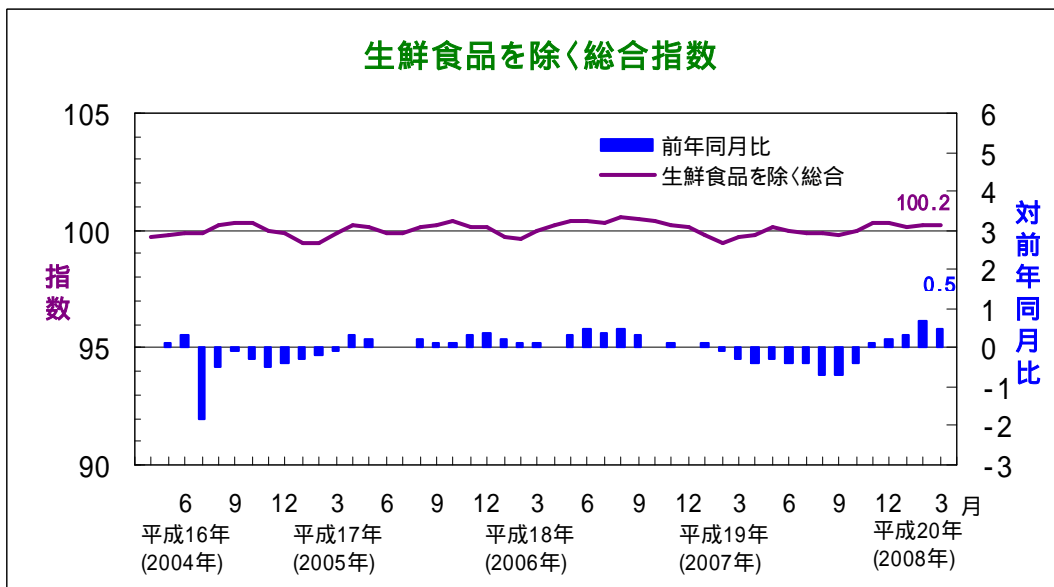
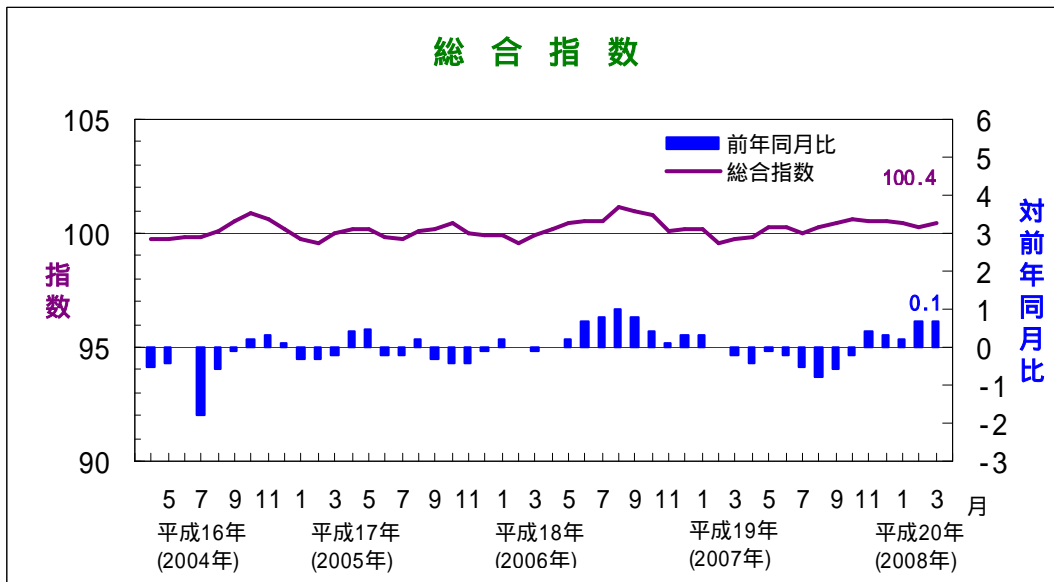
**平成20年3月分消費者物価指数（大津市）概況**

**総合指数は、前年同月比で5か月連続の上昇**

大津市の平成20年3月の消費者物価指数は、平成17年を100とした総合指数（平成17年基準）で100.4となり、前月と比べると0.1%上昇しました。前年同月と比べると0.7%上昇し、前年同月比で5か月連続の上昇となりました。

また、生鮮食品を除く総合指数は100.2となり、前月と比べて変動なく、前年同月と比べると0.5%上昇しました。

総合指数	100.4	（前月比）	0.1%上昇
		（前年同月比）	0.7%上昇
生鮮食品を除く総合指数	100.2	（前月比）	変動なし
		（前年同月比）	0.5%上昇



## 前月との比較

総合指数は、前月と比べると、生鮮果物が8.1%下落したものの、洋服が10.2%、生鮮野菜が5.6%上昇したことなどにより、0.1%上昇しました。

生鮮食品を除く総合指数は、前月と比べて変動ありませんでした。

### 上昇した中分類指数の主な項目（寄与度順）

洋服〔被服および履物〕	(+)	10.2%
生鮮野菜〔食料〕	(+)	5.6%

### 下落した中分類指数の主な項目（寄与度順）

生鮮果物〔食料〕	(-)	8.1%
----------	-----	------

注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および対前月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[ ]内は、10大費目名です。

## 【10大費目別に見た前月との比較】

住居	99.8 (+0.3%)	↘
家具・家事用品	98.6 (+0.2%)	↘
被服および履物	98.6 (+3.9%)	↗
保健医療	98.7 (-0.5%)	↘
交通・通信	103.0 (+0.1%)	↗
教養娯楽	94.9 (-0.1%)	↘
諸雑費	101.6 (-0.5%)	↘
食料、光熱・水道、教育	変動なし	→

平成17年 = 100

区 分	指 数	対前月		対前年同月	
		上昇率(%)	寄与度(*)	上昇率(%)	寄与度
総 合	100.4	0.1		0.7	
食 料	101.1	0.0	0.00	1.7	0.43
住 居	99.8	-0.3	-0.07	-0.6	-0.13
光 熱・水 道	103.2	0.0	0.00	0.9	0.06
家具・家事用品	98.6	0.2	0.01	0.7	0.02
被服および履物	98.6	3.9	0.16	2.1	0.09
保 健 医 療	98.7	-0.5	-0.02	-1.5	-0.06
交 通・通 信	103.0	0.1	0.01	3.6	0.53
教 育	102.2	0.0	0.00	0.6	0.03
教 養 娯 楽	94.9	-0.1	-0.01	-3.0	-0.29
諸 雑 費	101.6	-0.5	-0.03	0.3	0.02

\*寄与度・・・総合指数の上昇に対して各費目がどれだけ影響したかを示します。

## 前年同月との比較

総合指数は、教養娯楽用耐久財が17.3%、生鮮果物が16.2%下落するなどしたものの、自動車等関係費が5.9%、生鮮野菜が20.0%上昇したことなどにより、前年同月と比べて0.7%上昇しました。

生鮮食品を除く総合指数は、前年同月と比べると0.5%上昇しました。

### 上昇した中分類指数の主な項目（寄与度順）

自動車等関係費〔交通・通信〕	(+)	5.9%
生鮮野菜〔食料〕	(+)	20.0%
外食〔食料〕	(+)	3.8%
他の光熱〔光熱・水道〕	(+)	24.3%
シャツ・セーター類〔被服及び履物〕	(+)	9.5%

### 下落した中分類指数の主な項目（寄与度順）

教養娯楽用耐久財〔教養娯楽〕	(-)	17.3%
生鮮果物〔食料〕	(-)	16.2%
教養娯楽サービス〔教養娯楽〕	(-)	1.7%
ガス代〔光熱・水道〕	(-)	3.3%
保健医療用品・器具〔保健医療〕	(-)	6.3%

注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前年同月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[ ]内は、10大費目名です。

---

この資料は総務省統計局が作成、公表している全国の消費者物価指数のうち、大津市の消費者物価指数についてまとめたものです。

【 次回資料提供予定 】平成20年(2008年)5月30日(金)  
平成20年(2008年)4月分

(参考)

#### 消費者物価指数とは

消費者物価指数は、日常生活で私たち消費者が購入する各種商品（財やサービス）の価格の動きを総合し、平均的な物価の動きをみるために作られるもので、国民の消費生活にとって最も身近な指数です。日常購入する食料品、衣料品、電気製品、医薬・化粧品などの財の価格のほかに、授業料や家賃、理髪料バス代などのようなサービスの価格の動きも含まれます。

#### 10大費目とは

指数計算に採用する品目は、世帯が購入する多数の財・サービス全体の物価変動を代表できるように、家計の消費支出の中で重要度が高いこと、価格変動の面で代表性があること、さらに、継続調査が可能であること等の観点から選定された581品目に、持家の帰属家賃4品目を加えた585品目です。これらを大分類したものが10大費目です。